

田原市における
地域包括ケアモデル事業
の取組み（医師会モデル）
（在宅医療連携拠点推進事業）

田原市医療介護連携推進室

H27年3月24日（火）午後1時56分～

豊橋市公会堂



キャベゾウ

本日の内容

- ①立ち上がった理由
- ②なぜ必要になったのか
- ③何をやれるのか・何をやったのか
- ④どう変わったか・これからの田原市

*①立ち上がった理由

*国が動いた

- *医療・介護総合確保推進法の成立
- *平成27年度介護保険法の改正
- *医療・介護の連携拠点を市区町村に開設と位置付けられる。
- *認知症施策の充実（現在7人に1人）
- *生活支援の充実と高齢者の社会参加
- *地元の人考える地域づくり

*田原市は？

*①なぜ必要になったのか

*現状を知る。

* 田原市全体の概要

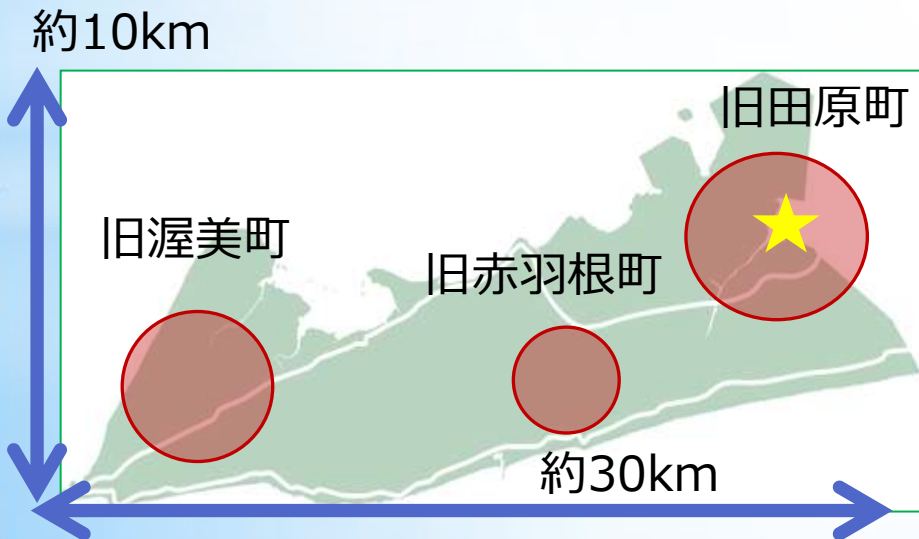
(H26年3月末時点)
(H25年3月末時点)

人口	65,017人 (21,902世帯)
65歳以上 高齢者数	15,585人 (高齢化率: 24.0%) 1年で約1%の増加
行政面積	188.81km ²
主な産業	自動車産業、花き等の農業 (農業産出額・花きの算出額は 日本一)



65歳以上世帯の状況

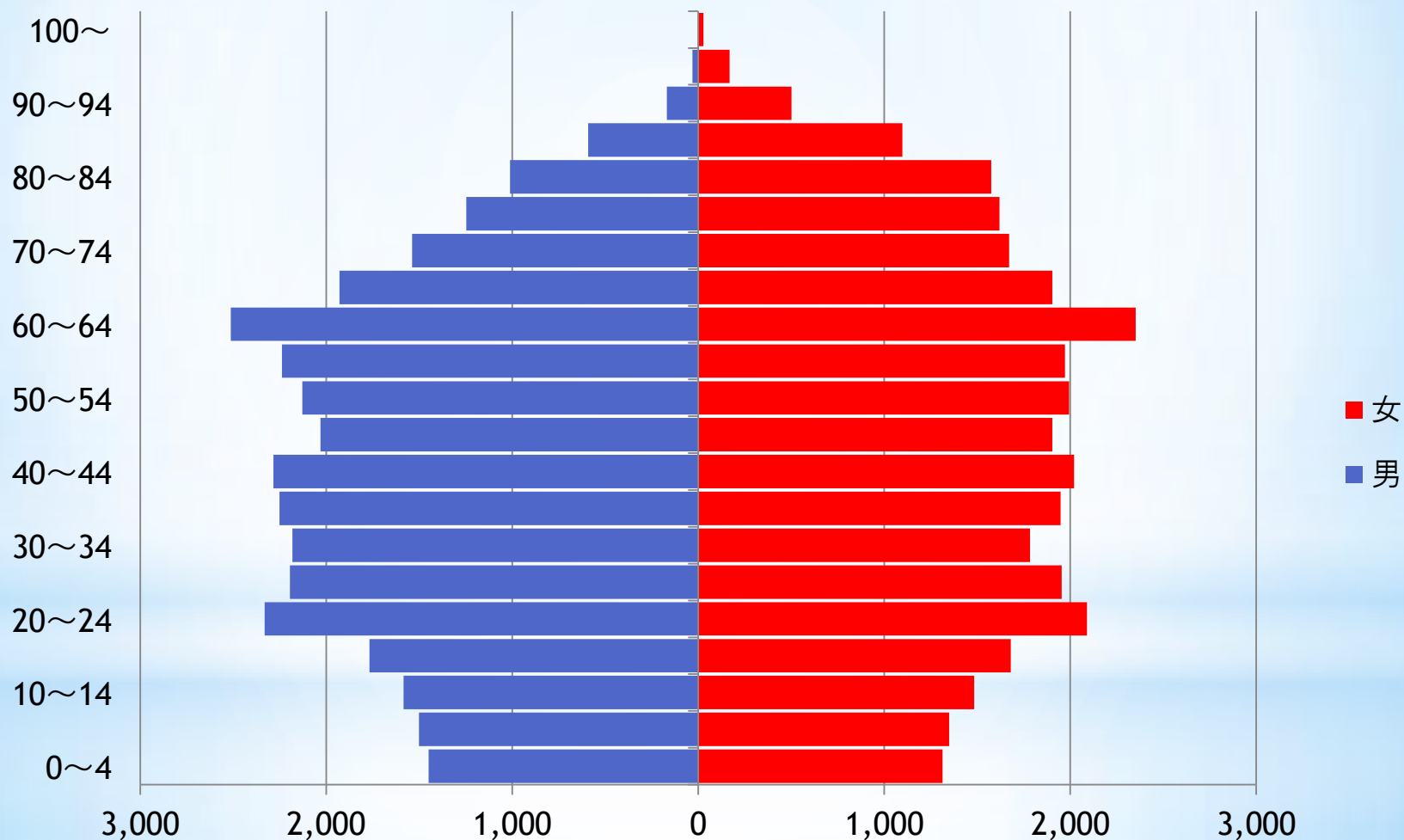
独居世帯	1,367世帯 1年で約100世帯増
高齢者のみ世帯	1,460世帯 1年間で約100世帯増
施設入所者	354人



* 田原市の医療・介護資源の現状

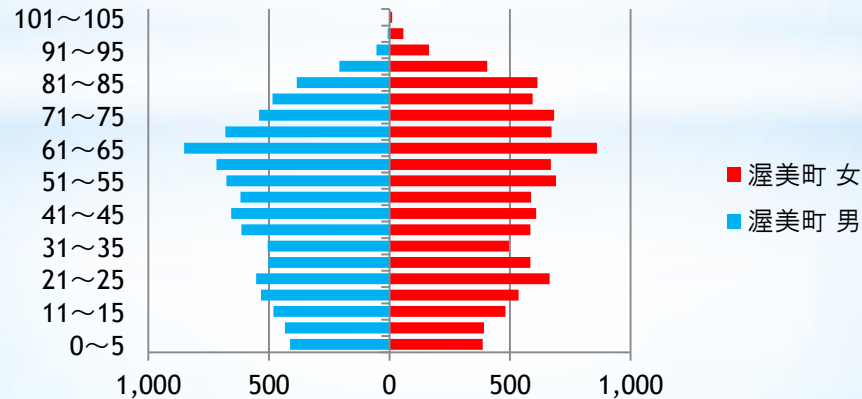
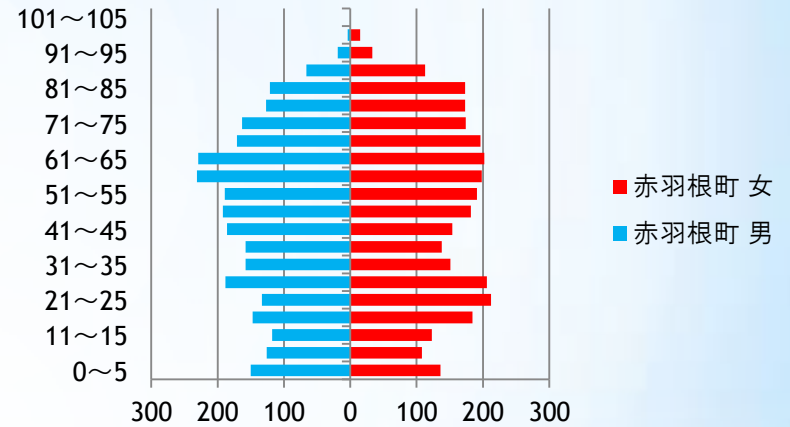
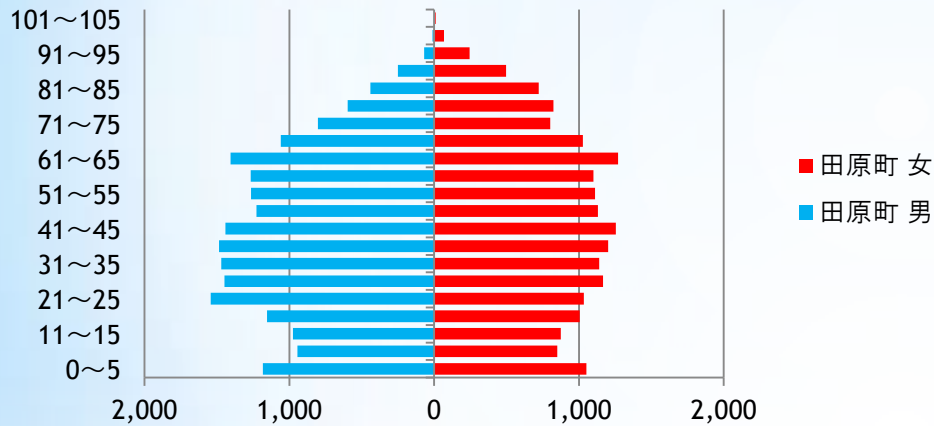
医療資源		介護資源	
渥美病院 (288床) 地域包括ケア 病床・療養病床開設	1施設	介護老人福祉施設 介護老人保健施設	2施設 2施設
医科診療所 (内科)	29施設 22施設	居宅介護支援 訪問介護	11施設 6施設
歯科診療所	28施設	通所介護 通所介護（認知）	24施設 3施設
調剤薬局	19施設	訪問入浴 グループホーム	3施設 5施設
訪問看護 訪問リハ	1施設 1施設	短期入所生活介護 短期入所療養介護	5施設 2施設

*現在の田原市の人口ピラミッド

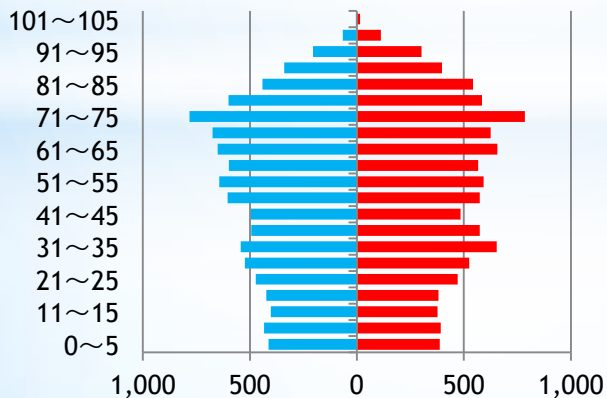
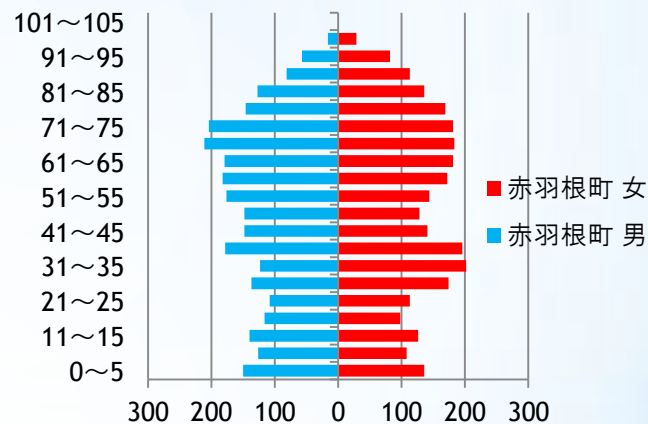
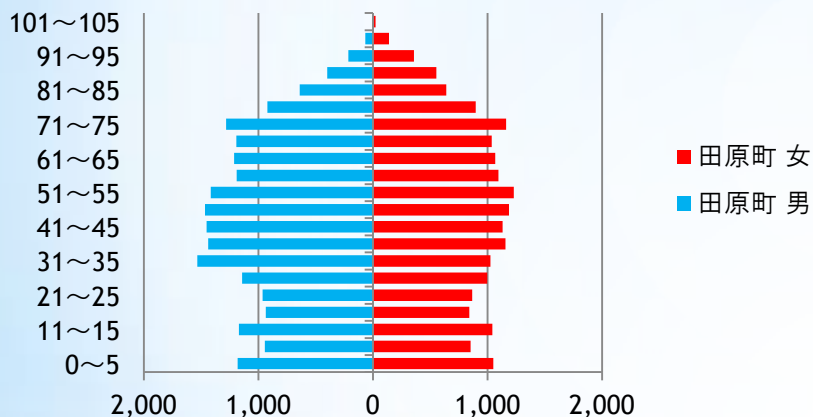


* 旧3町の現在人口ピラミッド

田原町高齢化21%・赤羽根町27%・渥美町29%



* 10年後旧3町ピラミッド もはやピラミッドではない



- * 現在3人～4人に1人は高齢者(65歳以上)
- * 現在7人に1人～2人は後期高齢者(75才以上)
- * なぜ高齢化が、問題なのか？
- * 75才になると急に多疾病・自立度が下がる。
- * (医療・介護の増大が問題 1ヶ月各約5億円)
- * ある推計20年後約150万人が死亡・多死時代
- * 出生は約60万
- * 年間約100万人の人口減少 名古屋市消滅

* でも皆が死ぬまで元気なら良い！

*ただ <田原市の強み> 平成22年度国勢調査

日本一

- * 高齢者労働力率：44.1%
* (65歳以上人口に対する65歳以上労働人口の割合)
- * 完全失業者の低さ (完全失業率：2.6%)



愛知県内一

- * 第一次産業就業者の割合
- * 農業就業者の割合



高齢になっても
仕事や役割がある？



* 田原市のデータ

複合家族の割合

愛知県1位

国保加入率

愛知県2位

1人当たり医療費が少ない

若い人が多く加入

(田原市国保・介護)

国保疾病

高血圧・心臓病

介護保険

認定者数2,301人・県平均より低い

平均介護度 2.5 県1位

意見書疾病

認知症1位

*また 田原市の弱み・課題

- *病院 1 施設のみで更に医師不足
- *医療機関 地域により偏りがある
- *内科医の高齢化 現在平均年齢60歳後半
- * 今後の後継者問題
- *有床診療所 無
- *在宅医療医師 診療の合間に少数往診
- *近隣市町村 豊橋市のみ

*医療資源が厳しい

*モデル地区（東部中学校区） の概要

- *人口 13,843人
- *面積 3,200平方km
- *65歳以上人口 3,112人
- *高齢化率 22.5%



- *医療機関数 渥美病院 1施設 診療所 6施設
- * 歯科診療所 4施設 薬局 8施設
- *介護施設 特養 1施設 ケアハウス 1施設
- * 通所介護9施設 グループホーム 1施設他
- *地域特性 医療・介護施設に恵まれている。

26年3月末現在

*③何をやれるのか

*何をやったのか

* 田原市の検討策

* 医療・介護の連携 → 多職種連携等会議

* 高齢医師の負担軽減 → 医療・介護情報の
共有化

↓
東三河ほいっぷネットワークの活用

* 在宅医療・疾病予防の啓発

* 地域包括ケアシステムの普及 → 出前講座

在宅医療のあり方や疾病予防・地域づくり

まず 医師の負担軽減



- * 医療・介護の連携が必要
- * (多職種研修会の開催・顔の見える関係)
- * 病院との連携・後方支援
- * (緊急時後方支援・レスパイト入院)
- * 市役所の役割の明確化
- * (現状を住民への周知・啓発)
- * (医療・介護人材育成)
- * (健康づくり・介護予防実施)

* 平成26年度の医療介護連携推進室の活動

1 多職種連携の課題の抽出と解決策の検討

- 医療介護連携推進室開設の挨拶回り
- 各事業者・3師会にアンケート実施（現状の把握）
- 多職種研修会4回 ・講演会2回（認知症・緩和ケア）
- 担当者会議の開催 12回（月1回）
- 介護保険事業者等への研修会 12回（月1回）
- 地域包括支援センターの地域ケア会議研修会 3回
- 視察 3回（柏市・御調町・新城市）

2 医療・介護情報共有ツールの活用

- 介護保険事業所説明会8回 加入32事業者
- 歯科医師会説明会 加入6 歯科医院 ○薬剤師会説明会 加入3施設

3 介護家族の負担軽減

- レスパイト事例（病院・診療所・歯科医師・ケアマネ・施設）
- 地域包括ケア病床・療養病床開設（渥美病院）10月～開設

4 在宅医療・地域包括ケアシステムの普及啓発

- 民生委員・商工会・介護保険事業者・老人クラブ・学生・医師・
歯科医師・看護師・保健師等 出前講座20回
（地域包括ケア・認知症予防等含む）実施

医療・介護連携推進協議会 (全体会議)



医療・介護連携推進担当者会議



多職種のグループワーク研修会



介護保険事業者等の認知症 講演会



介護事業者向上研修会



介護保険事業者向け認知症研修会

